顕現後第２主日　　２０２５年１月１９日

風のように

甘木教会

牧師：白川道生　　委嘱者：竹田孝一

イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行って、その栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。
ヨハネによる福音書２:１１

【説教要旨】　　最初の奇跡

社会のすべての分野において、大きく変化し、私たちの生活を直撃し、対応していくのに困惑しているということを私たちはひしひしと感じ、受け留めているのが、ま私たちの現状だと思います。

2:1 三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があって、イエスの母がそこにいた。2:2 イエスも、その弟子たちも婚礼に招かれた。 2:3 ぶどう酒が足りなくなったので、母がイエスに、「ぶどう酒がなくなりました」と言った。

母マリアがこの婚礼でどのような責任があったかは分かりませんが、婚礼の食事の席を取り仕切っていたのではないでしょうか。婚礼のために自分が用意していた葡萄酒がなくなる、これはピンチです。ピンチで困惑している母マリアの姿が彷彿されます。この困惑の中で起きたことは何だったのかと言うことです。

2:7 イエスが、「水がめに水をいっぱい入れなさい」と言われると、召し使いたちは、かめの縁まで水を満たした。2:8 イエスは、「さあ、それをくんで宴会の世話役のところへ持って行きなさい」と言われた。召し使いたちは運んで行った。 2:9 世話役はぶどう酒に変わった水の味見をした。このぶどう酒がどこから来たのか、水をくんだ召し使いたちは知っていたが、世話役は知らなかったので、花婿を呼

んで、2:10 言った。「だれでも初めに良いぶどう酒を出し、酔いがまわったころに劣ったものを出すものですが、あなたは良いぶどう酒を今まで取って置かれました。」 2:11 イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行って、その栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。

イエスさまによって、水が最高の葡萄酒に変わるという奇跡、しるしが起きたということです。この婚礼の主人は母マリアの子イエスさまだけでなくその弟子を招待したという大盤振る舞いしたのです。この婚礼にどんなに婚礼の主人は力を入れていたかということが想像出来ます。しかし、この婚礼に用意していた葡萄酒がなくなり困惑するのです。自分の計画したように思うようにいかなくなった。そういうことがしばしば私たちにも起こります。今の時代の激変の社会は、私たちの想像を超えて、私たちを困惑させています。

イエスさまの物語は、思うようにいかず困惑しているところにイエスさまがおられたということを伝えています。私たちが周到に計画したが、計画通りに運ばない困惑した中に私たちの思いと違う、思いを越えたイエスさまはおられるということです。「インマヌエル、神共におられる」ということです。

「2:3 ぶどう酒が足りなくなったので、母がイエスに、『ぶどう酒がなくなりました』と言った。 2:4 イエスは母に言われた。『婦人よ、わたしとどんなかかわりがあるのです。わたしの時はまだ来ていません。』」という言葉です。「婦人よ、わたしとどんなかかわりがあるのです。」というイエスさまの言葉をどう受け留めればよいのでしょうか。

「わたしの時」、メシアの時であり、私たちが考えているような時ではないのです。イエス・キリストが神の意志にもとづいて、救いのしるし、奇跡を行う時で、「わたしの時」は、必ず来るのです。だから母マリアは、「2:5 しかし、母は召し使いたちに、『この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください』と言った。」のです。マリアはイエスさまに子としてではなく、メシアの姿を見たのです。イエスさまに救いを見、イエスさまの業、しるしを発

見する信仰を私たちに示されたのです。「わたしの時」、メシアの時を必ず来ることを信じて待ったのです。

激変していく社会にあって、私たちは昨日まで十分に用意して来たことでは追いつかない状況に追いやられて、「2:3 ぶどう酒が足りなくなったので、母がイエスに、『ぶどう酒がなくなりました』」という困惑な時にあります。それをどうにかしなくてはいけないと真剣に考え、取り組んで苦闘している時をいきています。しかし、私たちのこの時とイエス・キリストがしるしを起こす時はまったく違うようで、また同時です。「わたしの時」イエス・キリストの時は、来るのです。つまり、救いの時は来るのです。母マリアがイエスさまに救いを見、その業、しるしを信じ、信頼し、時を待った姿が、今は最も大切です。

「2:5 しかし、母は召し使いたちに、『この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください』と言った。」と。母マリアの揺るがぬ信頼の姿勢が見えてきます。それがマリアを困惑にあって、婚礼の主人のために真剣に今なすべきことに取り組んださわやかな風を導き、「わたしの時」を呼び込んだのです。「イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行って、その栄光を現された」。神の力の顕現をマリアの信仰を通して、婚礼の全ての人が味わい知ることができました。「花婿を呼んで、2:10 言った。『だれでも初めに良いぶどう酒を出し、酔いがまわったころに劣ったものを出すものですが、あなたは良いぶどう酒を今まで取って置かれました。』」

確かに私たちは深刻にならざるを得ない時代の激変下にいます。しかし、ここにイエス・キリストはおられ、「わたしの時」、救いの時は今も貫かれて、祝福は用意されています。イエス・キリストの救いとしるしを発見する信仰をもって、いたずらに深刻にならずに、真剣になすべきことと取り組みつつ、イエス・キリストと共に「わたしの時」、メシアの時を待った母マリアのように為すべきことを為して皆で神のしるしをいただきましょう。祝福は用意されています。それで、弟子たちはイエスを信じた。

牧師室の小窓からのぞいてみると

昨年、ジミー・カーター元アメリカ大統領が100歳で亡くなられた。ノーベル賞を受賞し、人権と平和の実現を求めて働いてきた自らの人生を振り返り、幾多の失敗や挫折を貫いて出処進退を支えたキリスト教信仰をユーモアを交えつつ包み隠すことなく語った自伝「信じること働くこと ジミー・カーター自伝（新教出版）」で、イラン・アメリカ大使館占領事件で、カーター氏は、武力を使える立場をどれだけ抑制するかということであったという。この事件がカーター氏の再選を妨げることは分かっていたが、あえて武力をもっているアメリカが力を使わないかということがアメリカ大統領の責任だと言われたとき、「試みに合わせず悪より救い出したまえ」という祈りをささげたのだろう。

「信じること働くこと」というみごとな証であると思う。今の時代と真逆の信念であった。昔あったこと今もあるという希望をもって、カーター元大統領の働きを祈りつつ求めていきたい。

園長・瞑想？迷走記

1月17日は、神戸・淡路大震災発生から30年になります。当時、愛知県にいて大きく揺れました。2011年3月11日は東京で大きく揺れました。愛知県は教会建築が決まっていて、ゆっくりと構えていましたが、神戸に支援に入り、状況を見たときゆっくりではいけないと実感しました。

東京の時は耐震への備えを都が推進していました。神戸・淡路大震災の経験があり、何よりも命を守ることが大切だとすぐに旧園舎の耐震補強、新園舎の建築に入りました。こういう判断が設置者、園長の仕事だと自覚させられたきっかけとなりました。

日毎の糧

命の泉はあなたにあり、あなたの光に、
　　わたしたちは光を見る。　　詩篇３６：１０

「ルターの言葉から」

キリスト者は、さばきの日に、すべての人に知られることを願うような生活をすべきです。「光の子どもらしく歩みなさい。」（エペソ5・8）

（『マルティン・ルター日々のみことば』鍋谷堯爾編訳　いのちのことば社）

慈しみと真実の光

「13 悪事を働く者は必ず倒れる。　彼らは打倒され　再び立ち上がることはない。」というのが私たちの世界ではないだろうか。今、私が見る限り、世界に悪魔の御手が働き、戦争、貧困、差別・・・・が拡がり、悪を働く者で満ち溢れているように思える。そしてそれを私たちは支持して力を与えている。この悪魔の働きに対抗できない自分が見えてくる。だから、「13 悪事を働く者は必ず倒れる。彼らは打倒され　再び立ち上がることはない。」という神の信託を強く祈り望みたくなる。そして、悲観的になり、何もしなくなる。絶望の淵の口に飲み込まれようとしている。しかし、こういう世界にあっても「主よ、あなたの慈しみは天に。　あなたの真実は大空に満ちている。」という世界が私たちを被ていることに気づかなければならない。慈しみと真実の光が注います。三人の博士が星の光に導かれ救いのベツレヘムに着いたようにその光を見て、希望をもって、たとえそうでなくても一歩を踏み出していきましょう。

祈り：主よ、あなたの慈しみと真実は闇を開きます。慈しみと真実の光を見て、希望をもって一歩、踏み出せますように。アーメン。

甘木通信　　讃美歌の話２

驚くことに讃美歌が、ルーテル教会の讃美歌、「教会讃美歌」でなく「讃美歌 21」が、甘木では使われていることである。

まだ、「讃美歌」を使っている教会もあると聞く。確かに「教会讃美歌」は、原曲にしたため、日本人の音域とは違って歌い難し、長年慣れてきた「讃美歌」の音域とも違う。カラオケのように音の高さを自動的に変更できるようにそれぞれの教会の信徒の音域を知り、曲を編曲すればよいのだが、そんな技術に奏楽者がついていけない。

そんなところで、日本人の音域に合わせ編曲している「讃美歌」、「讃美歌２編」、「讃美歌２１」は使いやすい。「讃美歌 21」は現代語にもなっているので使いやすいかもしれない。

「讃美歌 21」で好きな曲は「主の食卓を囲み」81 番、実はこれは「カトリック聖歌」作成を高田三郎さんから引き継いだ新垣壬敏さんの曲である。そして、おもしろいことに「カトリック聖歌」、テゼ共同体の讃美歌、「聖歌」などがうまく編集れている。

大切な主日には、ルーテル教会の伝統の曲を讃美したい。そんなときは「教会讃美歌」の曲が歌詞においてふさわしい。豊かな礼拝となるように讃美歌はいろいろな使いかをすれば良いのではないだろうかと思う。

（甘木日記）土）夕刻より甘木。主日礼拝の準備。泊まり。日）早朝より掃除、花の苗植え、礼拝、掃除、S さんが成人式に出席前に教会に来てくださる。指導を受けながらインスタグラムを作成。教会のインスタグラム開始月）祝日、休みを取る。火）連休明けの幼稚園。少々疲れる。自己評価委員と懇談。朝まで教会の主日の準備。水）筑後地区幼稚園連盟の手伝い。幼稚園求人のために飛び回る。詩編の解釈の準備。木）北部幼稚園連合会の園長会。社会の変化の中で、どの園も苦悩している。金）１月１７日、神戸・淡路大震災から 30 年。幼稚園は避難訓練。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。ぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）午前中は日善幼稚園の掃除をしていたら、溶けかかった雪ダルマが可愛く、癒された。今日は花の苗をいれているバッグもあり、両手が塞ぐ。甘木に向かう。買い出しおじさんで、この人、なんでこんなに荷物をもっているのかと電車の客に笑われるかと思っていたらみんな寝ている。駅にいくとM牧師が待っておられ、大変に助かった。日）いつものように掃除をし、持ってきた花の苗を植える。もう遅いのだが、蓮華の種を蒔く。芽をだしてくれればうれしいが。礼拝後、インドネシアの青年が市主催の成人式に行く。先週からみんなが思ってくれて背広を彼のために用意してくれた。教会のインスタグラムを手伝っていただき始まる。月）祝日。今日は何もしないと決めて、家内と福岡にそばを食べに行き、散策。福岡城、大濠公園。歩き疲れたがこういう束の間の時を愉しもうとこの歳となると強く意識していこう。夜、強い地震があったというが感ぜず。火）連休明けの幼稚園。今日もいろいろとあったが、礼拝を共に子どもたちと出来ることに感謝。入園希望者が見学に来る。来るたびに自分の園とは何かと問われる。水）今日も一日落ち着きのない日である。求人のためのハローワークに、人材派遣会社への申し込み。人がいない。そこから見えてくるのは人口の減少。ここからも事の淘汰が始まる。そんなとき自分はどう生きるのかということが問われる。一日だった。幼稚園のインスタグラムを人に頼らずに自分で作り、人に意見を求めつつ確実にし、幼稚園の良さを発信していきたい。地区の主任研修のお手伝い。木）地区の園長会、地方議員との懇談会。時代の変化の中でどの幼稚園も苦悩している。懇談会で他園の園長と交流ができ情報をいただきました。金）神戸・淡路大震災の１月１７日。あれから３０年。朝に幼稚園で避難訓練。子どもたちは、上手に避難。その後、「おはしも」の説明を主任から聞く。「お：おさない、は：はいしらない、　し：しゃべらない　も：もどらない」

（大濠公園）（蕎麦屋やぶ金）

いつ起きても不思議でない時代。大切に訓練したい。